

科学史通信 2011年 No.403

〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目13番地11号 嶋津ビル202号
日本科学史学会 電話・Fax 03-3239-0545 振替口座 00120-3-175316
ホームページURL <http://historyofscience.jp>

目次

日本科学史学会2011年度総会・第58回年会のお知らせ（最終回）	1
2011年度日本科学史学会第58回年会・総会プログラム	2~6
科学史学校のお知らせ 普及委員会	7
2011~2012年度日本科学史学会役員選挙について 日本科学史学会選挙管理委員会	7
日本科学史学会研究倫理綱領制定についての提案	7
学術奨励賞を受賞して 泊 次郎、山崎文徳	8~9
事務局連絡／編集後記	9
日本科学史学会の学会賞が決まりました	9
2011年度日本科学史学会第58回年会・総会会場 案内図	10

日本科学史学会2011年度総会・ 第58回年会のお知らせ（最終回）

1. 期日:2011年5月28日(土)・29日(日)
2. 場所:東京大学教養学部駒場キャンパス(東京都目黒区駒場3-8-1)
年会、総会ともにすべて13号館。懇親会は同キャンパス内の生協食堂2階(银杏並木東端)。
交通:京王井の頭線「駒場東大前」駅(「渋谷」駅より二つ目)東口出てすぐ。本「通信」10ページの「年会・総会会場案内図」参照。
3. 宿泊:各自手配をお願いします。
4. プログラム:一般発表は発表15分、質疑応答5分、計20分。シンポジウムは2~3時間(シンポジウムのみ途中休憩は各代表者にお任せします)。
5. 年会参加費等:年会参加費(講演要旨集代1冊分を含む) 一般4000円、学生3000円(当日学生証等をご提示下さい)。懇親会費5000円。講演要旨集(参加せず要旨集だけが必要とする場合、または参加するが要旨集を複数申し込む場合) 1部1500円。本「通信」に同封の郵便為替用紙で5月17日(火)までに振り込んで下さい。集計作業の緩和のため、早めに振り込んで頂けると幸いです。
6. 発表者の会費納入:一般講演予定者は2010年度と2011年度の会費納入をしておく必要がありますのでご注意ください。
7. 委任状:総会に欠席の方は、同封の委任状に署名・捺印の上、5月23日(月)までにご返送下さい。
8. 昼食:構内にある次の施設が利用できます。ルヴェソンヴェール(フランス料理)(両日)、イタリアン・トマト Café Jr.(軽食)(両日)、生協

食堂・生協購買部(28日のみ)。また、大学周辺の若干の飲食店とコンビニエンスストアもご利用いただけます(受付に周辺地図を準備致します。弁当の手配は致しません)。

9. 配付資料:発表者はレジュメなどの資料をあらかじめ多めに各自作成しご持参下さい。最寄りのコンビニエンスストアまでは徒歩4~5分かかります。
10. パワーポイント:主催校で各会場にパソコンを用意致します。パワーポイントを使用される方はUSBメモリを当日ご持参下さい。その

際、USBメモリがウィルス感染していないようご注意ください。また、もしものために、プリントアウトしたものを必要数ご持参下さい。

11. 年会・総会準備委員会連絡先

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学教養学部科哲研究室 橋本毅彦気付 日本科学史学会第58回年会総会準備委員会(岡本拓司 e-mail: kagakushi@hpsc.u-tokyo.ac.jp/tel: 03-5454-6694/fax: 03-5454-6978)

2011年度日本科学史学会第58回年会・総会プログラム

2011年5月28日(土)

9:30 受付開始(13号館)

10:00-12:05 一般講演(13号館1311、1312、1321、1322)

12:05-13:00 昼休み

13:00-14:10 特別講演(1313) 小柴昌俊「地下実験カミオカンデ」

14:20-16:00 記念シンポ(1313) 伊東俊太郎・三浦伸夫「科学史研究を回顧する」

16:15-17:45 総会

18:00-20:00 懇親会(生協食堂)

2011年5月29日(日)

9:05 受付開始

9:40-12:05 一般講演(D会場のみ9:20開始)

12:05-13:00 昼休み

13:00-15:05 一般講演

15:15-17:45 記念シンポ(1311)「明治前科学史研究の回顧と現状」

一般シンポ(1312、1321、1322)

2011年5月28日(土) 午前の部 10:00-12:05

<A会場: 1階1311教室>

10:00 A11 コーツによるプリンキピア編者前書き

杉本 剛

10:20 A12 18世紀前半の力学における「座標」概念

伊藤和行

10:40 A13 『解析力学』の理論構成から見た、ラグランジュの初期の力学研究

有賀暢迪

<休憩5分>

11:05 A21 ハミルトン・ヤコビ理論の受容とシュタルク効果

中根美知代

- | | | | |
|-------|-----|-------------------------|------|
| 11:25 | A22 | 旧制第四高等中学校の物理学教育における電磁気学 | 夏目賢一 |
| 11:45 | A23 | 気体分子運動論と化学現象 | 稲葉 肇 |

〈B会場: 1階1312教室〉

- | | | | |
|--------|-----|---|-------|
| 10:00 | B11 | 19世紀英国科学者によるグランド・ツアー
—チャールズ・バベッジの第1回目のツアー— | 野村恒彦 |
| 10:20 | B12 | イギリス衛生学における1865-66年の重要性について | 小川眞里子 |
| 10:40 | B13 | 近代日本の植民地政策におけるペスト対策 | 大山卓昭 |
| 〈休憩5分〉 | | | |
| 11:05 | B21 | 清末中国の出版文化に見る近代天文学の普及過程 | 斉藤保男 |
| 11:25 | B22 | 久米邦武が『米欧回覧実記』で活用した地理書
(その4 ロシア・北欧三国編) | 福川知子 |
| 11:45 | B23 | 西洋科学技術者の日本における史跡 | 西條敏美 |

〈C会場: 2階1321教室〉

- | | | | |
|--------|-----|-----------------------------|------|
| 10:00 | C11 | 佐賀藩反専柙跡地出土の鉄塊の成分分析 | 長野 暹 |
| 10:20 | C12 | 工部大学校創設再考—工部省による工学寮構想とその実施— | 和田正法 |
| 10:40 | C13 | 大竹多氣の講述論文「自動織機」についての一考察 | 小関栄助 |
| 〈休憩5分〉 | | | |
| 11:05 | C21 | 大阪工業試験所の初代所長荘司市太郎 | 本庄孝子 |
| 11:25 | C22 | 滝川人造石油史と遺構の現状 | 山田大陸 |
| 11:45 | C23 | 18-20世紀の英独刃物産業について | 松井昭男 |

〈D会場: 2階1322教室〉

- | | | | |
|--------|-----|--------------------------------|-----------|
| 10:00 | D11 | 日本科学・技術の史的研究 (明治・大正そして敗戦前昭和まで) | 菊池俊彦 |
| 10:20 | D12 | 科学技術史授業における学生の歴史的事項の認識について | 松元宏行 |
| 10:40 | D13 | 戸坂潤の「実験」概念の転換 | 北林雅洋 |
| 〈休憩5分〉 | | | |
| 11:05 | D21 | 創始期の斎藤報恩会における学術研究助成 | 米澤晋彦・吉葉恭行 |
| 11:25 | D22 | 戦前期における技術封鎖と科学振興調査会 | 水沢 光 |
| 11:45 | D23 | 冷戦初期・占領期における技術者の「頭脳流出」 | 西山 崇 |

2011年5月28日 (土) 午後の部 13:00-16:20

〈13号館 1階1313大教室〉

13:00-14:10 特別講演 小柴昌俊「地下実験カミオカンデ」

〈13号館 1階1313大教室〉

14:20-16:00 記念シンポジウム「科学史研究を回顧する」

伊東俊太郎・三浦伸夫

2011年5月29日（日）午前の部 9:20-12:05

〈A会場: 1階1311教室〉

9:40 A31 インド天文学における惑星モデル ～パースカラ I による

『アールヤバティーヤ』注釈を中心に～

廣瀬 匠

10:00 A32 二十八宿古星度試論

武田時昌

10:20 A33 『天学雑録』と漢訳西洋暦算書の影響について

小林龍彦

10:40 A34 「阿蘭陀符帳」の日本伝来

城地 茂

〈休憩5分〉

11:05 A41 関孝和の逐式交乗と交式斜乗について

真島秀行

11:25 A42 清水流の測量術に記された天元術について

佐藤賢一

11:45 A43 藤沢利喜太郎と三上義夫の闘い

柏崎昭文

〈B会場: 1階1312教室〉

9:40 B31 エウクレイデス「オプティカ」は数理学か？

三富照久

10:00 B32 アリストテレスと前5・4世紀ギリシアにおける

身体の中樞器官をめぐる論争

今井正浩

10:20 B33 イブン・スィーナーの物質理論—生命の起源—

俵 章浩

10:40 B34 フランシス・ベイコンの物質理論と学問観

柴田和宏

〈休憩5分〉

11:05 B41 16世紀までの産婆術書は誰が書いたのか

—産婆術書の系譜—

小松真理子

11:25 B42 宋代の譜録にみる格物致知—植物の変異を通して—

久保輝幸

11:45 B43 新発見資料：J.-J.ルソーによる

シャプレー 『植物図絵』への書き込み

小林拓也

〈C会場: 2階1321教室〉

9:40 C31 授業筆記が解き明かす明治中期の「理科・科学」

小林昭三・興治文子

10:00 C32 第一次小学校令下の物理教育

—現前橋地区の高等小学校の試験問題

高橋 浩

10:20 C33 明治大正期の独創性教育—棚橋源太郎と沢柳政太郎

館江栞郎

10:40 C34 文部省科学教育局長・清水勤二による

科学博物館構想とその実現

馬淵浩一

〈休憩5分〉

- 11:05 C41 京城帝国大学医学部の学生と教授
—prosopography的検討— 石田純郎
- 11:25 C42 植民地期、朝鮮人科学者の動向と活動について 任 正赫
- 11:45 C43 戦時下の大学院特別研究生制度について
—制度確立と特別研究生銓衡の経緯を中心に— 吉葉恭行

〈D会場: 2階1322教室〉

- 9:20 D31 フランスに於ける核融合研究史の資料調査 小島智恵子
- 9:40 D32 熱核融合開発の推進と官産学複合体の形成 石垣 勝
- 10:00 D33 コールダーホール型原子炉導入における日英関係 奥田謙造
- 10:20 D34 冷戦初期の米国における国防研究開発委員会の活動について 栗原岳史
- 10:40 D35 “科学の参謀本部”
—ロシア/ソ連邦/ロシア科学アカデミー研究序説— 市川 浩

〈休憩5分〉

- 11:05 D41 民間航空機メーカーの技術競争力と分業構造の変化 山崎文徳
- 11:25 D42 廣重「科学の体制化」論再考 藤田康元
- 11:45 D43 批判主義の変質：新自由主義改革と日本のSTS 木原英逸

2011年5月29日（日）午後の部 13:00-15:05

〈A会場: 1階 1311教室〉

- 13:00 A51 アインシュタイン来日時における石原純との共同研究 安孫子誠也
- 13:20 A52 石原純の一論文の初出誌 西尾成子
- 13:40 A53 パークレーの184インチ・サイクロトロン建設における
Alfred Lee Loomis の役割 日野川静枝

〈休憩5分〉

- 14:05 A61 内部環境概念の展開
—生理学と量子力学における全体論的視座の連動— 天野陽子
- 14:25 A62 「ボス」と「若手」による湯川記念館設立 小長谷大介
- 14:45 A63 低速電子線回折におけるFarnsworth型とGermer型の比較：
なぜGermer型が普及したのか 山口まり
- 15:15-17:45 A71 記念シンポジウム「明治前科学史研究の回顧と現状」
佐藤賢一・中村 士・八耳俊文・酒井シツ

〈B会場: 1階 1312教室〉

- 13:00 B51 エドムント・ナウマン（1854-1927）に関する2、3の知見 矢島道子

- 13:20 B52 海軍水路部における「航海天文学」の研究 高橋智子
 13:40 B53 田山利三郎(1897-1952)の南洋地誌 山田俊弘
 〈休憩5分〉
 14:05 B61 戦時期日本におけるポピュラー・サイエンスと自然保護運動の起源 瀬戸口明久
 14:25 B62 発見から80年・「明石原人」の検討 下司和男
 14:45 B63 SAMの会と光天連：日本の観測天文学における2つのムーブメント 田島俊之
 15:15-17:45 B71 〈シンポ〉東工大天野資料から見た天野清 中島秀人(代表)・高田誠二・山崎正勝・小長谷大介

〈C会場: 2階 1321教室〉

- 13:00 C51 V.I.ヴェルナツキーにおける種の進化と生物圏の進化 徳永盛一
 13:20 C52 日本の有機化学研究伝統の形成と眞島利行の役割 梶 雅範
 13:40 C53 マイケル・ポランニーの科学研究 古谷紳太郎・中島秀人
 〈休憩5分〉
 14:05 C61 “An der Wiege der CONTAX” の検証 森 亮資
 —1930年代、ドイツのカメラ産業の技術水準
 14:25 C62 エドモンド・パークリーと論理回路 杉本 舞
 14:45 C63 パラメトロン・コンピュータの構成について 小山俊士
 15:15-17:45 C71〈シンポ〉物質・技術文化からみた近代数理諸科学の展開(1660-1840) 野澤 聡(代表)・小林 学・隠岐さや香・中澤 聡・但馬 亨

〈D会場: 2階1322教室〉

- 13:00 D51 四日市公害と環境基準の策定 馮 丹陽
 —硫酸化物に係る閾値の設定をめぐる—
 13:20 D52 大気汚染裁判に関わる研究者たちの専門性 住田朋久
 —四日市喘息裁判を中心に—
 13:40 D53 岡崎哲夫記念森永ヒ素ミルク中毒事件資料館の史料について 中島貴子
 〈休憩5分〉
 14:05 D61 試験管ベビーとレトリック： 田中丹史
 日本における体外受精技術の導入をめぐる—
 14:25 D62 アスベスト代替化における技術蓄積のインセンティブ 澤田鉄平
 14:45 D63 我が国における研究不正(ミスコンダクト)等の概観 菊地重秋
 —新聞報道記事から—
 15:15-17:45 D71 〈シンポ〉国際事業化する大規模科学技術研究開発 石垣 勝(代表)・佐藤 靖・綾部広則・廣野喜幸・有本建男・城山英明

科学史学校のお知らせ

普及委員会

開催場所は、港区芝浦のキャンパス・イノベーションセンター（5階リエゾンコーナー508AB）、時間は午後2時～4時まで。多くの方がご参加をお待ちしております。

第24期第2回 6月25日(土)

「19世紀の熱機関—蒸気機関を中心に」

小林 学

ジェームズ・ワットの特許による蒸気機関の独占が終わった19世紀は、蒸気機関の歴史にとって新たな展開が始まったときであった。ポンプや工場用から鉄道や船舶へとその用途は画期的に広がった。また水蒸気以外の作業流体を用いた熱機関の取り組みも始まった。しかし、19世紀末には蒸気タービンが発明されるなど、19世紀は蒸気動力中心の時代であった。講演では、蒸気機関の発達過程をその製作技術や熱力学との関連も含めて概観する。

2011～2012年度

日本科学史学会役員選挙について

2011年4月17日 日本科学史学会選挙管理委員会

第4回選挙管理委員会議事録

日時：2011年4月17日（日）午後1時30分～午後2時50分

場所：学会事務所

出席者：（選挙管理委員）中村邦光、和田正法、山口まり、石垣勝
（総務委員）岡田大士、河村豊

議事：

① 監査の選出確認

『科学史通信』No.401において報告した通り、会長・委員については決定しております。監査については立候補者がありませんでしたので、選挙細則第10条に則って、全体委員会で立候補者の選出をお願いしました。その結果、全体委員会（2011年4月10日開催）において、監査候補には大綱功会員と日野川静枝会員が選出された旨の報告を受け、上記2名の無投票当選を確認しました。

② 申し送り事項

・委員の立候補・推薦に伴う郵便事故がありました。これに伴い、立候補・推薦の手続き方法（たとえば、郵便とEメールの併用）の改善が望まれます。

・今回の選挙については、被推薦者数と比較して立候補者数が少数で、委員定数に達しませんでした。そのため、任期や組織形態などの制度の見直しを検討してはいかがでしょうか。

日本科学史学会研究倫理綱領 制定についての提案

「科学史通信」(No.400)において、全体委

員会において議決されました「研究倫理に関する宣言」を掲載いたしました。その宣言には「すみやかに研究倫理に関する綱領の制定に取り組む」とありますが、本年4月10日に開催されま

した第9回全体委員会において、以下の「研究倫理綱領(案)」が了承され、日本科学史学会2011年度総会において検討・議決していただき、かつ対応する特別委員会(研究倫理委員会(仮))を設置するよう提案をいたします。

日本科学史学会研究倫理綱領(案)

日本科学史学会は創立以来、日本を代表する科学史および技術史研究の専門学会として学術的貢献と社会的責務を果たしてきた。科学史および技術史研究の一層の発展に寄与するために、本学会は、科学史・技術史の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき基本原則として、「日本科学史学会研究倫理綱領」を定める。

1. 本学会は、学会員の公正な研究・教育活動を保障し、人権を尊重する環境の整備に努める。
2. 本学会は、学会員の研究および学会活動を尊重すると共に、それらが正当に評価され適切に批判されるような組織運営に取り組む。
3. 本学会は、科学史・技術史研究の文化的意義と学会活動の社会的責務を自覚し、行動する。

2011年5月 日

付則：

1. 本綱領は2011年5月 日より施行する。
2. 本綱領の変更は、日本科学史学会総会の議を経ることを要する。

『科学史通信』の11月号に掲載予定ということでご連絡をさしあげたにもかかわらず、「学術奨励賞」受賞者のことばの掲載が大幅に遅れてしまったことを、泊会員と山崎会員にお詫び致します。

学術奨励賞を受賞して

泊 次郎

私は間もなく66歳を迎える。そんな私

が若い研究者を対象とした学術奨励賞をいただいた。大変名誉なことには違いないが、素直に喜べないところもある。

その大きな理由は、どのような業績が受賞の対象になったのかが、明示されていない点である。私は勝手に、博士論文を改訂・出版した『プレートテクトニクスの拒絶と受容』に対する賞であろうと想像しているが、授賞理由を知りたい会員も多いことであろう。

実をいうとこの本は、「学術賞」の対象に推薦していただいたものである。それ故に、推薦は「奨励賞」の応募締切日から大幅に遅れてなされ、応募に必要な履歴書や業績リストなども提出されてはいない。

「学術賞」として推薦されたものが「奨励賞」になったのが不満なのではない。戦後の民主主義教育を受けて育った人間としては、定められた手続きを踏んでいないことがひどく気になるのである。

『プレートテクトニクスの拒絶と受容』は、1960年代末に登場し、現在では地球科学の基本的な考え方として定着しているプレートテクトニクスの日本での受容に際してのドラマを描いたものである。戦後の民主主義運動の中で生れ育った地学団体研究会(以下、地団研と略)に所属する多くの研究者が、プレートテクトニクスを拒絶しようとしたのはなぜなのか、に多くの紙数がさかれている。

地団研は現在も活動中であるし、実名で登場する人物の多くも生きておられる。抗議が来るのを心配したのであろう。博士論文審査会では、審査委員のある教授から「地団研に対する表現をもう少しやさしくできないか」と尋ねられた。しかしながら、心配は杞憂に終わったようである。本は若い世代にも大きな反響を呼んだが、抗議めいたものは一件もなかった。若い人達も、現代的なテーマだから、と臆せず取り

組んでほしいと思う。

学術奨励賞を受賞して

山崎文徳

2010年5月の日本科学史学会で学術奨励賞を受賞いたしました山崎文徳です。

私は、1998年度に大阪市立大学大学院経営学研究科に入学し、故加藤邦興先生の指導のもと、研究生活をスタートさせました。大学院では、「軍事技術と民生技術の関係」に関心をもち、アメリカ航空宇宙産業を対象に研究を進めました。2008年3月には、学位論文「ベトナム戦争以降のアメリカの軍事戦略と軍事産業基盤の再構築」を取得しました。

私が科学史学会に参加したのは98年からです。それ以降、技術史・技術論を研究する諸先輩からの叱咤激励は、ときには非常に激しく、厳しいこともありますが、学位論文を作成する上で欠かせないものとなりました。2002年以降は定期的に学会報告を行ったことも、研究の客観的評価を得るバロメーターになりました。

今回の受賞は、軍事技術の構造や性格についてより深い分析が求められているという意味で、今後への叱咤激励が強く

込められていると思います。ただし、軍事という研究対象の特殊性もあるので、しばらくは視点を変えて民間航空機産業の側面から、アメリカ航空機産業の技術史・技術論的により深く研究したいと思っています。その上で、アメリカ航空機産業の軍事部門と民生部門の関係を総合的に捉え、軍事技術と民生技術の関係についても実証的に分析したいと思います。また、その成果として、いずれは周囲から納得されるような単著を書くことが必要だと感じています。これからもよろしく願いいたします。

事務局連絡

☆本通信には、総会委任状にかんするハガキ、東京大学で開催される年会参加費の振替用紙が同封されています。ご確認ください。

編集後記

☆次号通信は、7月半ばに発行の予定です。原稿は6月末までに事務局までお送り下さい。1行20字で、400字を基本に原稿をお願いいたします。

日本科学史学会の学会賞が決まりました

4月10日に開催された日本科学史学会賞選考委員会及び第9回全体委員会において、第5回日本科学史学会賞受賞者を下記のとおり決定いたしました。

◇日本科学史学会学術賞：該当者なし

◇日本科学史学会論文賞：

瀬戸口明久「ダーウィンを記念する－日本における進化論受容をめぐる歴史認識の形成－」、『生物学史研究』No.83(2010)

宮島一彦"A New Discovery of Korean Astrolabe", *Historia Scientiarum* 93 March 2008

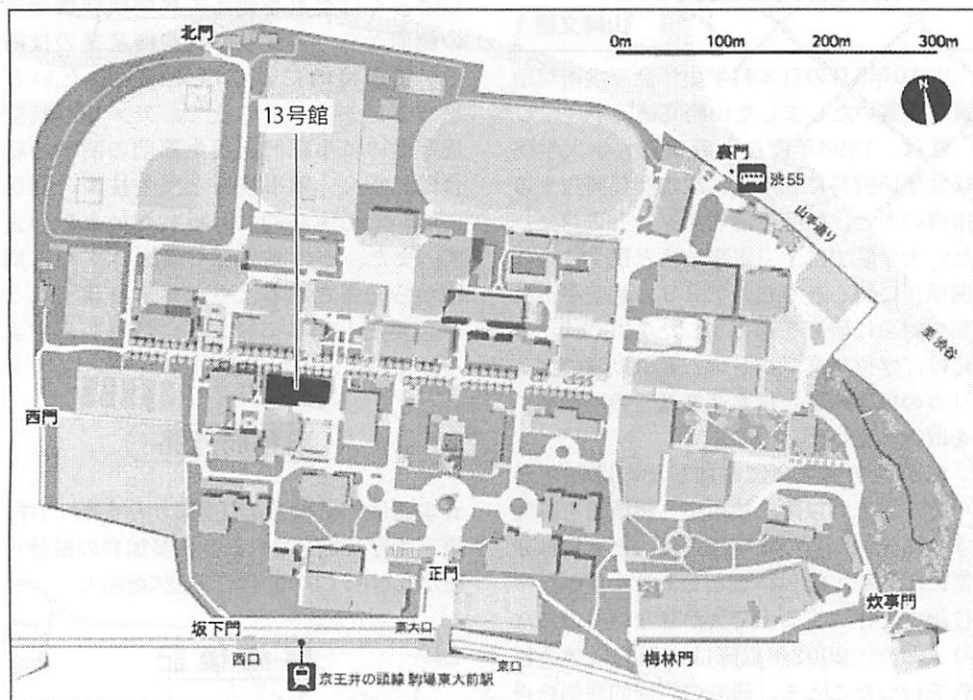
◇日本科学史学会学術奨励賞：野澤聡、久保輝幸、横田陽子

◇日本科学史学会特別賞

伊東俊太郎

『仁科芳雄書簡集 全3巻』の編集グループ

会場案内図



アクセス

●乗車駅

渋谷駅(JR 山手線等→井の頭線)

下北沢駅(小田急線→井の頭線)

明大前駅(京王線→井の頭線)

※下記アクセスマップを参照

●下車駅

井の頭線 駒場東大前駅

